

まほく通信

東北関東大震災発生

3月11日午後2時46分ごろ、三陸海岸沖を震源地とする大震災（マグニチュード9.0）が発生し、大きな津波が北海道から茨城県にかけて来襲し、多くの犠牲者を出しました。各地の被害は、マスコミ等で報道されているので、ご承知のことと思いますが、東北各県の多くの難病患者さんにも連絡がつかない状況が続いていると、各疾病団体などから報告を受けています。

3月16日 朝日新聞和歌山版掲載（記事詳細）

「亡き娘の恩返し義援金 1千万円」

紀の川市難病患者家族会事務局長 森田 良恒さん

紀の川市北浦にある不動寺の住職森田良恒さん（60）が15日、東日本大震災の被災地に贈ってほしいと義援金1千万円を同市役所に託した。市はさっそく日本赤十字社支部（和歌山市）に届けた。

森田さんは1985年に当時5歳の次女を胆道閉鎖症で亡くしている。生後間もなく、専門医のいる東北大学付属病院（仙台市）に約1年半の間入院したとい、「医師や看護師らにお世話になったことが忘れられない」と寄付を思い立った。

現在は紀の川市難病患者家族会の事務局長を務めている。「タイガーマスク運動」が盛り上がった1月には、市出身の医師華岡青洲の名義で会に100万円の寄付があった。森田さんは「今度は私が少しでも助けになりたい」と話した。（記者・燧正典）

当会の会長で仙台出身の神森和子さんのご親戚の方々にも未だ連絡がつかない方もいらっしゃると思います。会員のなかにも同じように不安な日々を送られている方も居られるのではないのでしょうか。

【義援金の取り組み】

この大震災にあたり「難病患者家族会きほく」として、義援金の取り組みを行いたいと思います。ご協力いただける方には左記の郵便振替口座にお振り込みいただけますようお願い致します。

なお振込用紙も同封致しますのでご利用下さい。

東北関東大震災義援金 郵便振込口座

00910-6-141327

<名義>

那賀地方患者家族会きほく

名目は「義援金」とお書き下さい

第22号

2011年
3月17日
発行

那賀地方
患者家族会
きほく

災害に備え、もういちどチェックしましょう

【難病患者の災害時におけるチェック項目】（ウラ面にもあります）

1. 地震などの災害対策について

(1) 家具などの転倒防止について

自宅の耐震診断を受けた	はい	いいえ
自宅の耐震工事を行った	はい	いいえ
家具の転倒・落下防止を行った	はい	いいえ
ガラスに飛散防止フィルムを貼った	はい	いいえ

(2) 次の災害時の必需品を準備している

患者の医療情報を記載したもの	はい	いいえ
携帯電話・ラジオの準備	はい	いいえ
医療に必要な機材（人工呼吸器など）	はい	いいえ
外部バッテリー、自家発電機	はい	いいえ
医薬品の準備	はい	いいえ
飲料水	はい	いいえ
非常持出品をバッグに詰めている	はい	いいえ

【会長】 神森 和子

紀の川市中三谷

【相談室】

0736(77)5161

【事務局】

千6496612 紀の川市北浦371
森田方 0736(75)4413

(3) 避難対策

避難所を確認している	はい	いいえ
避難経路を確認している	はい	いいえ
避難する歳の支援者を確保している	はい	いいえ
緊急搬送・避難方法を確認してい	はい	いいえ

2. 支援者支援機関との連携体制の構築

(1) 災害緊急カードの作成 はい いいえ

(2) 支援者・支援機関への情報提供

市町村	はい	いいえ
消防機関	はい	いいえ
電力会社	はい	いいえ
医療機器のサービス担当会社	はい	いいえ
訪問看護ステーション・ホームヘルプ事業者	はい	いいえ
民生委員等	はい	いいえ
町内会・自主防災組織	はい	いいえ
近隣住民	はい	いいえ
かかりつけ医・専門医との連携	はい	いいえ

(3) 家族・支援者・支援機関との緊急時の連絡方法について

NTT災害伝言ダイヤル、家族内連絡方法確認	はい	いいえ
市町村	はい	いいえ
消防機関	はい	いいえ
電力会社	はい	いいえ
医療機器のサービス担当会社	はい	いいえ
訪問看護ステーション・ホームヘルプ事業者	はい	いいえ
民生委員等	はい	いいえ
町内会・自主防災組織	はい	いいえ
近隣住民	はい	いいえ
かかりつけ医・専門医との連携	はい	いいえ

3. 「災害時要援護者支援計画」について

(1) あなたの病気の情報を保健所から市町村に提供することに同意されますか？

はい
 いいえ

(2) 上の質問で「いいえ」の場合その理由は何ですか？

自分の病気を知られるたくない
 自分と家族だけで避難できる
 個人情報漏れることに不安

私たちの地域では東南海地震が予想されています。
 今回の大震災を見ていると決して他人事ではありません。
 万全の備えをしている方は何人いるのでしょうか。安心できる状況ではありません。
 災害時にパニックにならないように、身の回りのことについてもう一度点検しておきましょう。